

兵庫県内の主な軍事遺跡

地域創生・ツーリズム研究所 資料 dt10gun.pdf

神戸

施設名	所在地	建設年	概要
神戸海軍操練所	神戸市中央区新港町	1864年	勝海舟が将軍徳川家茂に建言、海軍兵学校や海軍機関学校として1864年開設した。海軍営などと称せられたが、1年後に入所者問題から廃止された。開所期間は短かったが、その間、坂本龍馬、陸奥宗光、伊東祐享らの逸材を輩出した。礎をモチーフにした神戸海軍操練所跡碑が同地に建つ。また、海軍営の碑が諏訪山の金星台に、またそのレプリカ及び陸奥宗光顕彰碑と並んで建つ。
和田岬砲台	神戸市兵庫区、三菱重工神戸造船所内	1864年	外国の艦船（黒船など）の来航に伴う沿岸警備のため、1864年建造。高さに11.5m、直径15m。1階には弾薬庫や砲身冷却用井戸、2階11門と屋上16門の砲門（実際には装備されなかった）。砲台周囲に、東西約60m、南北約71mの星型上塁が築かれていた。工事中、勝海舟が案内して将軍徳川家茂（14代）や公家たちが見学、また神戸海軍塾長だった阪本龍馬も訪れた。国史跡に県下第1号指定（1921年）。
舞子砲台	神戸市垂水区、舞子公園内	1865年	JR舞子駅南の舞子公園、明石海峡大橋の橋脚の袂に残る。幕府の命令により明石藩が設置。2005年に近くのマンション建設に先立って発掘調査が行われ、初めてその全容を現した。当時、神戸海軍操練所の明石藩士らも手強い、塾長の阪本龍馬も見学に来た。
大阪鎮台兵庫分営	神戸市兵庫区楠町7丁目	1873年	明治6年10月に、坂本村（現在の神戸大学医学部附属病院のあるところ）20,900坪に、兵営や操練場を造営。翌明治7年に大阪から砲兵第7大隊（後の第2大隊）の1箇小隊が駐屯。和田岬砲台で射撃訓練や、明治天皇行幸の際にお迎えの砲を撃ったりした。明治10年には廃止されてしまった。
旧第11警備大隊洞窟	神戸市中央区口城山ほか	1945年頃	市内中央区周辺に5ヶ所（県立神戸高校裏山、天理教兵庫教務庁裏、妙光院山手、新神戸駅裏の城山、神戸山手学園の東）の地下壕が発見された。諏訪山の武徳殿裏山（山手学園の東）は大隊司令部か。通常の防空壕ではなく、終戦近く、本上決戦を考慮した神戸港の防衛を目的とした部隊の様子。
大阪俘虜収容所神戸分所等	神戸市中央区伊藤町ほか	1942年	旧居留地のオリエンタルホテル倉庫に神戸分所（中央区伊藤町）、丸山遊園広場（現、神戸市総合療育センター）に神戸川崎分所（長田区丸山町2丁目）、脇浜小学校に第十八分所（中央区脇浜町3丁目）を設置。
神戸俘虜病院	神戸市中央区口熊内町1丁目 同長田区丸山	1944年	中央神学校の廃校跡盾門を接收し、44年7月から俘虜病院としたが、45年6月の大空襲で焼失し、長田区丸山町の俘虜収容所跡に移転された。
（米軍射撃場）	神戸市須磨区東須磨字月見山	1945年	戦災後、神戸市に払い下げられていた須磨離宮を米軍が接收し、射撃場とした。返還後、昭和33年から工事にかかり、昭和41年に須磨離宮公園となった。

阪神

施設名	所在地	建設年	概要
高射砲台座	尼崎市東七松町1丁目、橋公園内	1940年	尼崎市役所前の橋公園内に、ライオン像の載ったものと後方にも、つごう2基（当時、6基あった）。高さ3m。高射第3師団独立高射砲第11大隊が、八八式七糎野戦高射砲を装備していた。今は、台座のみ。
尼崎憲兵分隊	尼崎市崇徳院	1941年	大阪憲兵隊築港憲兵分隊尼崎憲兵分遣隊として発足。1943年（昭和18年）に尼崎憲兵分隊に昇格し、1945年（昭和20年）には神戸地区憲兵隊尼崎憲兵分隊となり、終戦。建物もコンクリート壁が遺る。
大阪陸軍衛生材料支廠	尼崎市若王子	1943年	大阪市港区から移転してきた。

施設名	所在地	建設年	概要
西宮砲台	西宮市西波止場町	1866年	海岸の砂地に建造された砲台。高さ12m、直径約17m、砲台周囲53m。外側は漆喰塗り、内側に弾薬庫と井戸。2層目の孔(11砲眼)から大砲で四方を標的とできた。当初、試射された模様。その後1884年(明治17年)の火災で黒ずんでいる。
今津砲台跡	西宮市今津真砂町	1866年	直径10数m、2層で四方を狙う。1915年に民間に払い下げられ、採石のため取り壊された。残る石碑はその石材の一部を活用。
甲陽園地下壕	西宮市甲陽園	1945年	戦闘機の部品工場として建造された。太平洋戦争中、1200人余の強制連行された朝鮮・中国人が動員された。戦後40年余経って、甲陽園の住宅街の真っ只中に残された地下壕を研究者が発見。直系3m、総延長390m。周辺の南北約1km、東西約700mの範囲に7つの壕の存在を確認。現在は、一般公開はされていない。山王東公園に甲陽園地下壕跡地の碑。地下壕は崩落等の危険から埋め戻される予定。
旧西宮海軍航空隊	西宮市上ヶ原、関西学院中学部	1944年	三重航空隊西宮分遣隊を前身に、1945年3月に開隊。関西学院を接收し、校舎を居住区と講堂に、グラウンドを練兵場とし、通信講堂などを急造して、予科練教育航空隊を発足させた。同年6月には、本土決戦要員として各部隊に配属され、本隊は終戦を待たずに解隊された。
旧大阪陸軍獣医資材支廠長尾分廠跡	伊丹市北野1丁目	1942年	約10万坪、当時は川辺郡長尾村。現在の北野、荒牧南の地区に相当。軍用引込線やプラットフォームなどもあり、軍用馬の蹄鉄の生産や医薬品の保管などを行っていた模様。1964年に払い下げられて、現在は住宅団地入口付近に、正門の門柱を残すのみ。
大阪陸軍衛生材料支廠	尼崎市若王子	1943年	大阪市港区から移転してきた。
天神川隧道(軍用引込線)	伊丹市荒牧5丁目	1945年	省線中山駅(宝塚市)から軍用引込線が敷設されて軍用列車が走っていた。現在の荒牧バラ公園の南西近くにある天神川(天井川)の下を潜るトンネル。引込線は1945年10月には撤去された。
旧野里兵器廠跡(大阪陸軍兵器廠川西分廠)	宝塚市山本野里3丁目 川西市・伊丹市	1942年	省線中山駅(宝塚市)から続く軍用引込線が途中二股に分かれて、長尾分廠へ向うのと別の方向にもあり、行き着く先は、どうやら野里兵器廠であった模様。現在は痕跡は全く残っていないが、この周辺一帯は自衛隊の駐屯地があり、その関係施設が建っている。また、旧陸軍境界石標が遺る。
軍用鉄道給水塔	西宮市中島町	1943年頃	省線西宮駅から省線甲子園口駅に側線整備し、甲子園口から浜手の川西航空機の工場までは阪神武庫川線(狭軌・広軌併用の3線軌条)に乗り入れて、軍用鉄道を運行(1942年～)していた。蒸気機関車の補給施設として給水塔が残る(甲子園口SL公園内)。
旧宝塚海軍航空隊	宝塚市栄町1丁目	1944年	三重航空隊滋賀分遣隊が独立し、滋賀海軍航空隊となり、そのまた分遣隊が当時川辺郡小浜村の宝塚歌劇場を接收。劇場客席を講堂に、舞台を雨天体操場に、劇場ロビーにベッドを並べて居住区としていた。現在の宝塚駅から逆瀬川北側にかけて、4つの連兵場があった。1945年3月には解隊となった。歌劇場内に航空隊跡地の碑。
大阪陸軍兵器廠川西陸軍官舎	川西市加茂	1942年	現在も官舎に使われていた建物、境界石標が遺る。
陸軍船舶情報連隊駐屯地	西宮市葭原町	1945年	香栢園にあった甲陽高等商業学校(現、甲陽学院)を、陸軍の船舶情報連隊(暁部隊)が駐屯・宿舍とし、甲子園口の甲陽学院中学校で訓練していた。
旧大阪陸軍造兵廠相野地下場跡	三田市藍本庄	1940年頃	三田市の奥、省線藍本駅の西南方向、酒垂神社、郵便局前を通り抜けた丘中に洞窟が残る。記録では、三田北方藍野とあり、近隣の藍小学校が一部、事務所に転用されていた。大阪の造兵廠の移転先候補だったようである。
旧傷痍軍人療養所方位盤	三田市三輪第二	1939年	昔は傷痍軍人療養所内にあった報国神社の境内に置かれていた。現在の国立病院機構兵庫中央病院の駐車場内に残る。直径60cm、高さ40cm表出、盤面四隅に東西南北や町の方角を示す御影石製の円筒形の方位盤。皇居遥拝などにも使われた。療養所の門柱も残っている。

東播磨

施設名	所在地	建設年	概要
旧陸軍三木（・相野）飛行場跡	印南郡稲美町草谷	1945年	印南郡稲美町と三木市の境界周辺（稲美町母里村相野地区と美囊郡別所村にわたる草谷川周辺）に造られた。1400mの滑走路を具備し、終戦間際に完成。九州へ向う特攻隊の中継地として利用された模様。現在は田畑と雑木林。その中に境界を示す陸軍の刻印付き石杭が僅かに並ぶ。
大阪陸軍造兵廠播磨製造所	高砂市荒井町新浜2丁目	1941年	製鋼から鋳造・加工の一貫工場を計画したが、資材不足から、大砲の砲身鋳造・加工のみを行った。現在は、主に三菱重工と神戸製鋼所の工場になっている。
旧陸軍航空通信学校加古川教育隊	加古川市野口町	1938年	1938年に陸軍の高射砲連隊を設置。1944年に航空通信学校加古川教育隊を開設。高さ5mの門柱を待つ正門が残る。現在は、ハリマ化成加古川製造所。戦後、製造所内に部隊ゆかりの「加古桜」を植栽し、記念碑が建てられている。
旧陸軍航空通信学校尾上教育隊	加古川市尾上町、浜の宮公園内		松林の中に大きな木造兵舎が並んで、約1500人の兵士が駐屯していた。戦後、1947年に浜の宮中学校に校舎として払い下げられ、その後1950年代には取り壊され、現在は、浜の宮公園内に兵舎跡のコンクリート基礎が残る。
旧陸軍加古川飛行場（尾上飛行場）跡	加古川市尾上町池田	1937年	浜の宮公園の南側周辺。関西防空の要として500m～1500mの滑走路が5本あり、パイロット養成の教育隊として活用された。1941年に、加古川対岸の三菱製紙高砂工場の60mの煙突を離着陸の妨げとして高さをカット。終戦間際には、関東方面から九州に向う特攻隊の中継地となった。工場の煙突は、戦後1967年に継ぎ足された（50m、ビール瓶型）。現在は取壊されて、オーミケンシの敷地となっている。
旧大阪陸軍航空袖給所神野出張所（神野弾薬庫）	加古川市大野、加古川刑務所内	1937年	航空機用の爆弾を製造保管。火薬庫、弾薬庫、弾丸庫、弾薬充填工場、機関砲充填工場、工具修理工場などがあった。現在は加古川刑務所。当時、構内の弾薬庫は爆発時の被害防御のための高い土塁で囲われて、爆弾を掲載した軍用トラックが煩瑣に出入りした幅2m、高さ2.5mのコンクリート製トンネルが2本残っている。また、空襲に備えて、近隣の日岡山公園内に爆薬格納壕を3ヶ所。
旧陸軍神野弾薬庫軍用引込線	加古川市野口町水足		弾薬や兵士を運ぶ軍用引込線が省線加古川線に繋がっていた。幅3mの用水路にか架かる橋が残る。分厚い頑丈な鋼鉄製の補強がされている。
海軍鶴野（うずらの）飛行場	加西市鶴野町場	1944年	航空隊のパイロット養成用。滑走路は延長1200m、幅20mで、現在は防衛省が管轄。同年には、川西航空機の鶴野組立工場もできた。現在の神戸大学農学部内には関連施設群（格納庫、エプロン、防空壕、機銃座、衛兵詰所跡などが残っている。滑走路脇には、遺族会が建立した平和祈念の碑がある。
青野ヶ原俘虜収容所	加西市青野ヶ原町	1915年	第1次大戦ほドイツ人俘虜が、姫路収容所から移されてきた。俘虜兵たちと地元市民たちとの交流（俘虜カレッジ、オーケストラ、劇、詩朗読会、運動会、体育指導、農業交流など）が行われた。
大門廠舎	小野市西山町	1888年	軍馬育成所（1888年）、姫路第十師団野線砲兵第十聯隊の砲兵射撃場・演習場（1900年）、戦車第六聯隊を設置（1939年）、姫路憲兵隊青野ヶ原分隊、加古川陸軍病院青野ヶ原分院を増設。元兵舎、指揮官官舎などが残る。

西播磨

施設名	所在地	建設年	概要
旧第10師団兵器庫	姫路市本町、城山公園	1905年	日清戦争後増設された師団。日露戦争や満州事変などの日中戦争に動員された。大戦中は関東軍の直属師団、後、南方派遣などにより師団は壊滅状態となり、終戦。1905年(明治38年)に東西棟建設、1913年(大正2年)に南北棟を増築し、L字型に2棟を接続した配置とした、兵器や軍服を収納した兵器庫、被服庫。戦後1947年(昭和22年)姫路市庁舎に、1983年(昭和58年)に姫路市立美術館となる。煉瓦造2階建、日本瓦葺、切妻屋根で、国登録有形文化財。
旧第10師団長官舎	姫路市本町、城山公園	1924年	師団長の官舎として、当時は平屋建ての洋館と入母屋造瓦葺木造2階の和風住宅だった。現在は、カトリック淳心会の本部として、モダンな洋館のみ残る。
旧城北軍事施設群	姫路市廣峰2丁目	1898年頃	1898年(明治31年)に第10師団が置かれ、騎兵、砲兵、輜重兵の特科3連隊が加えられた。区域の南半分を城北練兵場として、また北側を三分して、東から輜重兵第10大隊、野戦砲兵第10連隊、騎兵第10連隊の兵舎など諸施設が建設された。1903年(明治36年)に明治天皇が行幸され、ここで大観兵式が執り行われた。この城北練兵場は、現在の姫路競馬場と城北新町がほぼ該当し、大小17棟が残る。

丹波

施設名	所在地	建設年	概要
旧篠山連隊跡(歩兵第70聯隊兵営)	篠山市郡家	1908年	1908年(明治41年)に歩兵第70連隊として設置され、部隊は「丹波の鬼」との異名をとった。1937年(昭和12年)に本隊満洲移駐につき留守隊が1940年(昭和15年)に第168連隊となり、同44年に中部第110部隊が編成され、第31航空通信連隊。現在は、ハローワーク篠山前の道路沿いに衛門の門柱、土塁、東門を残すのみ。営門柱などや貯水槽跡、建物が遺り、歩兵第70連隊跡の碑、歩兵第168連隊の碑、第31航空通信連隊の陸軍特別幹部候補生修練の地の碑が建つ。
篠山陸軍練兵場跡	篠山市東浜谷	1908年	東西約400m、南北約500mに設けられた。陸軍境界石標が遺る。現在、兵庫県篠山総合庁舎、篠山総合スポーツセンター、篠山産業高校農場などになっている。
篠山陸軍射撃場	篠山市矢代	1908年	現在はパナソニックの「ユニットピアささやま」。境界石標、監的壕などが遺る。
篠山陸軍病院	篠山市東浜谷	1908年	終戦時には航空總軍に属していた。後に厚生省所管となり国立篠山病院、その後病院の移転に伴い民間に払い下げられた。正門跡などが遺る。

淡路

施設名	所在地	建設年	概要
松帆台場跡	淡路市岩屋	1863年	徳川幕府の命により、阿波藩が砲台を建築した。現在は神戸製鋼保養所「ゆうなぎ荘」内に残る。石積みの上塁高台は砲塁跡、また、三方を石垣で囲った場所が火薬所跡である。御備船用の松帆湊跡（未完成）。台場としては、東西530m、南北250mと広がった。2006年、国の史跡に指定。
旧由良要塞跡	洲本市由良	1889年	大阪湾防衛のため、和歌山県の加太・深山地区と友が島地区、兵庫県洲本市由良地区に、1889年から1910年にかけて、紀淡海峡を望んで設置された要塞。1903年に鳴門要塞も吸収。ここに要塞司令部が置かれ、生石山砲台、成山砲台、高崎砲台、赤松山堡壘、伊張山堡壘、生石山堡壘で構成していた。由良要塞重砲兵連隊、後の重砲兵第3連隊が運用し、終戦時には第2総軍第15方面軍直轄部隊が守っていた。生石山一帯には、砲台5、堡壘、砲側庫、塹壕、高射砲台、貯水池、発電所、井戸などの跡が残る。成山には砲台2。
鳴門要塞跡	南あわじ市福良丙	1900年	1897年けに設立、1900年に完成したが、1903年に由良要塞に併合された。柿ヶ原砲台（現、大鳴門記念館）、笹山砲台（現、駐車場）、行者ヶ嶽砲台、門崎砲台（現、道の駅うずしお）が設けられた。
由良煉瓦拱橋群	洲本市由良	1910年頃	1894年から1910年にかけて、由良要塞関連施設、重量物運搬に耐える頑丈な道路橋として建設された9つの煉瓦橋。海岸線に近い県道から生石山砲台に向う市道にかけて、また伊張山軍道にかけて、由良の市街地の背後を走る旧由良軍道に架かる。笠石を地露石として煉瓦で化粧している。
榎列（えなみ）基地跡	南あわじ市榎列、松帆、志知、神代、市村、八木	1945年	淡路島の三原平野に、陸軍が密かに阪神地方の防空用に建設した。当時は、陸軍の名称では由良飛行場だが、機密扱いで単に「〇〇（まるまる）」と称した。滑走路は東西幅30m、長さ1,000m。終戦直前の昭和20年7月頃に完成し、10月から飛行大隊が到着。しかし有効に活用される期間は無かった。直後に取壊されて農地に戻されたが、コンクリート塊などは、他に転用されて散見される。

URL

<http://kdskenkyu.saloon.jp/kdsdata.htm>